

平成24年度
事業計画書

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

はじめに

1. 協会創立50周年

当協会は、本年協会創立50周年を迎えました。昭和37年5月、関東地区のパブリック8コースを発起人として、「関東パブリックゴルフ協会」を創立、ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、統一ハンディキャップの普及、並びにゴルフに関する調査・研究等を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として、活動してきました。その後、昭和39年3月に全日本的組織「日本パブリックゴルフ協会」に改組しました。また、平成6年3月には通商産業省(現:経済産業省)より、社団法人の認可を得て、「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」に改組しました。

さらに、平成22年3月には国が所管するスポーツ団体として、第1号の「公益社団法人」の認定を受けるとともに、協会名称を「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称しました。今後も協会創立の理念・精神を引き継ぎ、公益目的事業を通じて、民による公益増進への積極的な参画、また社会貢献を果たすべく全力を傾注して行きたいと考えています。

また、創立50周年を記念して記念誌「PGS50年のあゆみ」を、本年5月に発刊します。当記念誌を通して、これまで当協会事業に携わった諸先輩の偉業を称えるとともに、今日のゴルフ界を支える関係諸団体の皆さま方に、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

なお、創立50周年を記念して、平成24年度競技のパブリック選手権全日本は、紫あやめ36(千葉県)、また女子パブリック選手権全日本を、八千代ゴルフクラブ(千葉県)にて開催します。両コースは当協会創立の発起人コースであり、創立50周年という節目の年に、いま一度協会創立の原点に戻る意味で、発起人コースを舞台にパブリック選手権全日本を開催し、今後も競技ゴルフの魅力を、より多くの皆様にお伝えすべく努力したいと考えています。

2. ゴルフ業界の現状

平成24年度は国内の復興、ゴルフ界の再興に向けて、本格的に動き出すべき重要な一年になると思います。平成23年度を振り返ってみますと東日本大震災、欧州債務危機、アメリカ財政問題等によって、大きく揺れた一年でありました。特に、3月に発生した未曾有の東日本大震災では多くの人命が奪われ、東北地区を中心に大きな被害をもたらしました。お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、被災した皆様に対して心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興並びに皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の最近の状況を、ゴルフ場利用者数の推移(下表参照)で見ると、平成17年度にゴルフ場利用者数はそれまでの減少から増加に転じ、その後平成21年度までの5年間の増加人数は延べ6,335千人、増加率7.4%と順調な増加傾向を示し、漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめたかの様に思われましたが、平成22年度は夏季の猛暑や年末年始の降雪の影響から、人数・率とも過去2番目の大きな減少(▲3.9%)となりました。平成23年度は、速報値ながら4.6%減少との報道もあり、東日本大震災の影響は避けられず、現状のまま推移すれば過去最大の減少になる可能性も出てきています。

足許のゴルフ場利用者数の推移は以上の通りですが、ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあります。一方、2015年問題、所謂人口構造の変化からくるゴルフ業界マーケットへの影響として、ゴルフ場・ゴルフ練習場の入場者数が2010年にピークアウトし、以後連続減少期に突入するとの予測ですが、現実にはピークが一年早く2009年に訪れたと言われています。人口減少、少子高齢化と同時進行している2015年問題から、ゴルフ業界の経営環境は引き続き厳しいとの見方が一般的であります。

この様な状況下、ゴルフ業界にとってはゴルファーを増やす底辺の拡大施策、またプレー回数を増やす等の需要創出が喫緊の課題であり、一方、ゴルフを継続できる環境整備に向けて

ゴルフ業界団体は、連携を強化し市場活性化に向けた取組を、一層強化すべきであると思われます。当協会はゴルフ競技会を通じて、アマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えています。

【近年のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり利用者数 (人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481
平成22年度	88,061	▲3,581	▲3.9	2,432	36,209

(注) 出所: 社団法人日本ゴルフ場事業協会調

3. 東日本大震災に対する復興支援活動

(1) ゴルフ業界の復興支援活動

昨年3月に発生した未曾有の東日本大震災は、東北地方を中心に大きな被害をもたらしましたが、ゴルフ業界の東日本大震災の復興支援活動は、昨年日本ゴルフサミット会議が中心となり、他にゴルフ4団体(*)の参画を得て復興支援活動をスタートさせました。平成23年4月4日にゴルフ界20団体の代表者が一堂に会して、「日本ゴルフ界合同・震災復興支援チャリティプログラム」として「グリーン・ティ・チャリティ(GTC) ～日本のゴルフが、日本のチカラに～」と銘打った復興支援プログラムをスタートさせました。日本のゴルフ界団体が大同団結したのはゴルフ界始まって以来であり、義援金総額50億円を目標として、3か年間に亘る息の長い復興支援活動を現在も継続展開中です。

(注) GTC に参加の日本ゴルフサミット会議以外のゴルフ界4団体

日本ゴルフ場支配人会連合会(平成24年1月開催の日本ゴルフサミット会議において、日本ゴルフサミット会議加入が承認され、現在はサミット会議のメンバー)、日本学生ゴルフ連盟、日本高等学校ゴルフ連盟(高ゴ連)、NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

(2) 当協会の復興支援活動

東日本大震災直後の平成23年3月17日に、平成23年度第4回理事会を開催したが、公益社団法人の立場から、社会貢献活動の一環として東日本大震災の復興支援は責務である、との緊急動議が決議され義援金募集活動を開始しました。その後、4月には前述の通り、日本ゴルフサミット会議を中心としたゴルフ界団体の復興支援活動(GTC)がスタートしました。当協会の義援金募集活動は GTC の一環として位置付け、本年度も活動を継続中であります。

なお、阪神・淡路大震災(平成7年1月17日、M7.3、死者 6,433 名)の際は、(1)第29回全日本パブリック選手権の参加料より1百万円を、参加ゴルファーの善意の結晶として「読売新聞社・読売光と愛の事業団」を通じて、(2)日本ゴルフ関連団体協議会に構成員として、総額5百万円の内、当協会負担金50万円を義援金として寄付しました。

なお、東日本大震災の当協会への影響は甚大なものがあり、特に競技参加者数に謙虚に表れました。震災直後は、ゴルフどころではないとの世の中のゴルフ自粛の風潮から、競技が開催できるのか懸念されましたが、その後の世の中の落ち着きとともに開催に漕ぎ着けることができましたものの、パブリック選手権の参加者人数は前年度対比で1,726名減少(▲19.6%)の

7,075名まで落ち込みました。(パブリック選手権の最盛期は、平成14年度から18年度の5年間で参加者人数は毎年一万人台をキープした)。一方、シニア・ミッドアマ選手権は何とか前年度実績比微減 [シニア:65名(▲2.1%)減少、ミッドアマ:78名(▲1.3%)減少] と健闘したものの、パブリック選手権の不振は何ともし難く、収支・財政面で甚大な影響が生じました。

4. 事業目的と事業の種類

(1)事業目的

当協会は昭和37年に創立され本年50周年を迎えましたが、今後も国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等を通じて豊かな国民生活の実現に寄与したいと考えています。わが国のゴルフ人口は約一千万人と言われ、ゴルフはまさに国民的スポーツとして、充実した余暇活動の一助として男女を問わず、ジュニアから高齢者に至るまで幅広く愛されています。今後ますます高齢化社会が進展していく中において、「余暇活動の充実」「健康の保持増進」は重要なテーマと思われませんが、ゴルフは格好の「生涯スポーツ」として支持されています。

当協会はゴルフの普及振興のために、公益目的事業として

- ① 国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業
- ② 国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

また、収益事業等として

- ① アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる、公平な統一ハンディキャップの普及振興事業、及びその前提となるコースレート査定事業
- ② ジュニアゴルファーの育成を目的に活動するゴルフ業界2団体に対し、その育成を支援する観点から助成する事業

を基本理念として事業活動を推進いたします。

(2)公益社団法人の認定

- ①現在我が国では、公益法人制度改革が進められていますが、当協会は平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受けました。昭和37年創立以来、事業目的は前記(1)事業目的の通りですが、今後も公益社団法人として公益目的事業を通じて、民による公益への積極的な参画により、社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えています。

(注)法人名称変更:平成22年4月1日付

(新)公益社団法人 日本パブリックゴルフ協会

(旧)社団法人 日本パブリックゴルフ場事業協会

- ②公益社団法人としての「今後の事業活動基本方針の策定」

平成22年11月11日開催平成22年度第4回理事会において、公益社団法人認定に関連して当協会の今後の事業活動の基本方針の策定が必要との判断から、会長の諮問機関である「特命プロジェクト委員会」が発足しました。

特命プロジェクト委員会はその後種々の議論を答申として取り纏め、会長に提出致しました。答申内容は、平成23年度通常社員総会(平成23年6月開催)において、「今後の事業活動基本方針」として承認され、それに沿って既に一部改革が進められていますが、平成24年度は基本方針の全般にわたって、具体的改革施策の実現に向けて種々の提言、対策が実行に移されることとなります。

(3)事業の種類

①公益目的事業(定款第4条)

- 1) ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- 2) ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- 3) ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- 4) ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

②収益事業等(定款第5条)

- 1) 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- 2) ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

5. 事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選):(1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝):(1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ	
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

(注)PGS 東日本プロ・アマチャレンジ:平成24年度は開催見送り。

6. 会議開催予定

(1)通常社員総会

平成24年度通常社員総会は、平成24年6月11日(八重洲富士屋ホテル)開催予定で、下記議案を審議する。

第1号議案 役員改選(案)の件

第2号議案 平成23年度事業報告(案)承認の件

第3号議案 平成23年度貸借対照表(案)、正味財産増減計算書(案)他承認の件

(2)理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成24年 6月11日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第2回	平成24年 6月11日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第3回	平成24年 9月13日	未定(西日本地区)
第4回	平成24年11月 8日	メルパルク名古屋(愛知県)
第5回	平成25年 3月14日	未定(西日本地区)

(3)全国運営委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年 8月24日	メルパルク名古屋(愛知県)
第2回	平成25年 2月15日	銀座ラフィナートホテル(東日本地区)

(注)平成24年度より会議体の見直しを実施

従来の合同委員会、並びに予算編成正副委員長会議を全国運営委員会に改組した

(4)財務委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成25年 2月22日	協会事務局

(5)スポンサー会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年10月18日	西神戸ゴルフ場(兵庫県)

7.「今後の事業活動基本方針」と地区・全国運営委員会の新設と組織の見直し

前述の通り、当協会は公益法人認可を機に、今後の事業活動の基本方針、将来展望等の策定が必要との判断から、会長の諮問機関である特命プロジェクト委員会を設置(平成22年11月11日開催平成22年度第4回理事会)し、今後の事業活動の基本的在り方に関して答申しました。

答申内容は、平成23年通常社員総会(平成23年6月開催)で、「今後の事業活動基本方針」として承認され、平成24年度はこの基本方針に沿って具体的諸施策の実現に向けた、種々の提言、施策が実行に移されることとなります。平成23年度では手始めに協会基盤の整備、全会員参加型の協会運営のための活動、並びに従来の縦割委員会組織を改組し、新たに横串組織として運営委員会(地区、並びに全国)を新設、運営委員会中心型の協会運営体制へシフト、並びに加盟コースの協会活動への参加意識も高めるための改革に着手しました。

■「協会基盤の整備、全会員参加型の協会運営のための活動」に関する改革

(1)従来の縦割委員会組織を改組し、新たに横串組織として「運営委員会(地区、並びに全国)」を新設し、運営委員会中心型の協会運営体制へシフト、並びに加盟コースの協会活動への参加意識も高めることとした。

(2)地区運営委員会

協会事業活動の全国的な課題について地区の考え方や方針を議論し、全国運営委員会に提案する。

①構成員:地区加盟コース

②役員 :地区運営委員長 :副会長

:地区事業・競技・HDCP 委員長 :地区毎に1名選出

③事務局 : 地区連絡協議会事務局とする

(3) 全国運営委員会

協会事業活動の全国的な課題について、地区運営委員会の意見を取り纏め、方針案を決定し理事会に提案する。

① 構成員

1) 全国委員長

・総務・財務全国委員長: 全国区より1名選出

・事業・競技・HDCP 全国委員長: 3副会長が全国委員長を互選により分担する

2) 全国副委員長

各地区選出の事業・競技・HDCP 委員会委員長

3) 専務理事

4) 監事

② 定例運営委員会 : 年2回開催

③ 臨時運営委員会 : 随時

④ 事務局 : 協会事務局

■「役付理事構成」に関する改革

(1) 地区・全国運営委員会の新設に伴い、役付理事(会長、副会長、専務理事、常務理事(7名以上10名以内)の選出基準の明確化を図る。

(2) 役付理事の定数・選出方法

① 全国選出役付理事

会長(1名)、総務委員長(1名)、財務委員長(1名)、専務理事(1名)、会員外理事(8名)

② 地区選出役付理事

・副会長 : 3名(事業・競技・HDCP 全国委員長を互選により分担)

・事業・競技・HDCP 地区委員長 : 8名(全国副委員長兼務)

(3) 常務理事の定数と選出基準

① 定数 : 定款通り(第20条2項) 7名以上10名以内

② 選出基準

・全国委員長 2名 : 総務・財務全国委員長

・各地区選出事業・競技・HDCP 地区委員長(全国副委員長) : 8名

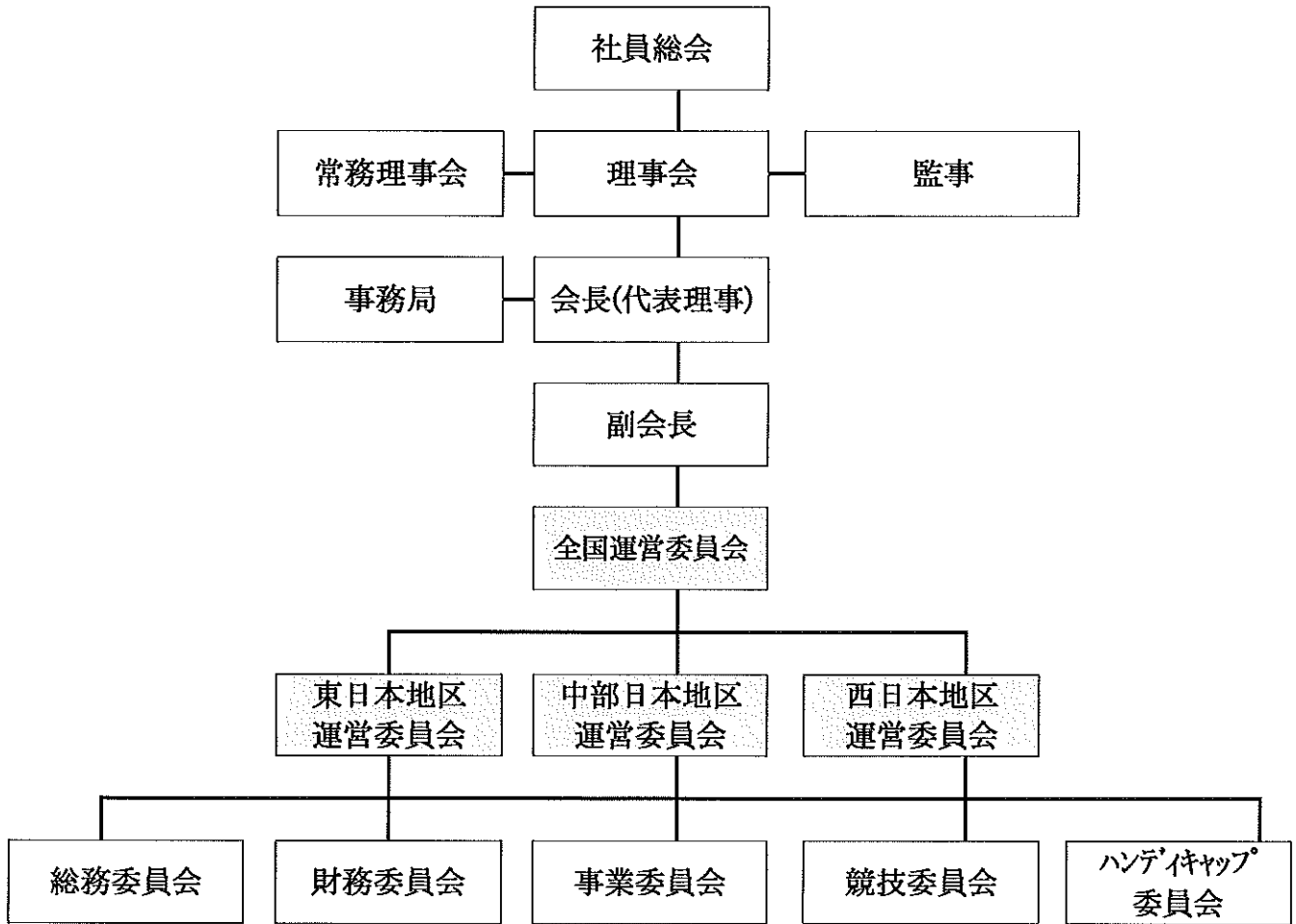
(4) 専務理事 : 役員改選年度の3月幹部会で候補者選任、並びに役員報酬額案の内諾を得る

(5) 監事の定数、選出方法

・定数 : 定款通り(第20条) 2名以上3名以内

・選出方法 : 全国区より選出(会員監事2名、会員外監事1名)

8. 新組織図



9. 会員・組織整備

(1) 会員(平成24年3月末日現在)

- ① 正会員 : 83会員
- ② 助会員 : 6会員

【会員数の推移】

単位: 団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4
平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6
平成22年度	2	3	89	0	0	6
平成23年度	0	6	83	0	0	6

10. 創立50周年記念事業

創立50周年記念事業として、1. 協会史「PGS 50年のあゆみ」を発刊(平成23年5月予定)、2. 平成23年通常社員総会(6月11日開催)終了後「50周年祝賀パーティー」を開催予定である。

平成24年度事業計画

【 公益目的事業 1 ゴルフ競技会開催事業 】

■ゴルフ競技会開催事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、全国でアマチュアゴルファーを対象としたゴルフ競技会を開催する。競技(下表参照)には、1.スクラッチ競技と、2.アンダーハンディ競技があり、平成23年度の総参加者数は3万6千人であった。参加資格はアマチュアゴルファー、ゴルフ技量は自己申告制で、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰でも日頃の研鑽の腕試しの場として参加できる門戸の開かれた競技会である。競技会開催案内は当協会独自の広報活動(ポスター、パンフレット、ホームページ)に加えて、マスコミ報道により一般に公開している。

★主催競技会

競 技 (略 称)	平成24年度 参加者数 計画(名)
I.スクラッチ競技	
1.第46回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	7,500
2.第12回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	860
3.第18回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,500
4.第18回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	360
5.第 9回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	950
6.第 6回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)	6,130
小 計	17,300
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯	7,120
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	1,350
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会	1,040
4.PGS西日本月例杯	9,930
5.PGS中部日本月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ	460
6.PGS東日本クラブ対抗戦	400
小 計	20,300
合 計	37,600

■平成24年度競技の改善点

1. 他団体競技のシード権追加

(財)日本ゴルフ協会、関東ゴルフ連盟他8連盟等に対してシード権の追加申請をし、下記のシード権が付与された。他団体からは現在未回答。

[新規認可(3月15日現在)]

- (1)北海道ゴルフ連盟 : 北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権予選 2位～10位
- (2)四国ゴルフ連盟 : 四国ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝 1位
- (3)日本ゴルフツアー機構 : ANAオープンゴルフトーナメント主催者推薦選考会 1位
- (4)LPGA ツアー : 中京テレビ・ブリヂストンレディスオープン主催者推薦選考会 全日本1位

【平成24年度他団体主催競技へのシード権一覧】

◆パブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
		中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る	
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る	
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道オープンゴルフ選手権予選	1～10位	当該地区居住者	
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			ン倶楽部メンバー				
			翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権青森県予選	ン倶楽部メンバー	当該地区居住者 上位3～10位	
		北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者	
	当年度		ANAオープンゴルフトーナメント主催者推薦選考会	1位			
	東日本ABC	関東ゴルフ連盟	翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権ブロック大会	1位	当該地区居住者	
			翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権予選	2位～10位	当該地区居住者	
		日刊スポーツ新聞社	当年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権関東決勝	1～2位	男子のみ	
	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			当年度	中部オープンゴルフ選手権予選	2位～30位	当該地区居住者	
			翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権予選	2～30位	当該地区居住者	
	西日本 関西	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
サンケイスポーツ		当年度	近畿オープンゴルフ選手権	1位	当該地区居住者		
西日本 中国	中国ゴルフ連盟	翌年度	中国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
西日本 四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権予選	2～3位	当該地区居住者		
西日本 九州	九州ゴルフ連盟	翌年度	九州アマチュア選手権決勝	1位	当該地区居住者		
		翌年度	九州アマチュア選手権予選	2～5位	当該地区居住者		
◆女子パブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本女子アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
		中京TV・BS(公認:LPGA)	翌年度	中京テレビ・ブリヂストンレディス主催者推薦選考会	1位		
地区決勝	中部	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子アマチュアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者	

	日本					
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国女子アマチュアゴルフ選手権 決勝	1位	当該地区居住者
◆パブリックミッドアマチュア選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権 決勝	1位	当該地区居住者
地区決勝	北海道・ 青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権 決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権 予選	2～10位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	当年度	東北ミッドアマチュアゴルフ選手権 決勝	1位	当該地区居住者
	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者
			当年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権 決勝	1位	当該地区居住者
			当年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権 予選	2～20位	当該地区居住者
西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドアマチュアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者	
◆シニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	中部シニアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆女子シニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本女子シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部女子シニアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
◆ミッドシニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドシニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドシニアゴルフ選手権	1～10位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドシニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆グランドマンスリー						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
地区決勝	全地区	日本ゴルフ協会	当年度	JGA杯J-sysゴルフ選手権	4名	男子AB、女子ABクラス各1名

■競技会開催要項

1. 参加資格

競技	参加資格	年齢資格
I.スクラッチ競技		
1.パ選	1.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー 2.高等学校までに在学の生徒は、学校長等責任者の参加許可証の提出が必要 3.誰でも参加できる。ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい	なし
2.女子パ選		
3.シニア		男子55歳以上
4.女子シニア		女子50歳以上
5.ミッドシニア		男子65歳以上
6.ミッドアマ		男子、女子共30歳以上
II.アンダーハンディ競技		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	なし
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンスリー		
3.PGS ドリーム・エイジゴルフ大会	なし	65歳以上
4.PGS 西日本月例杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	なし。
5.PGS 中部日本月例杯 (みんなできりき旅ゴルフ)	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者 JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー	
6.PGS 東日本クラブ対抗戦	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	

(注) 1. PGS 会員:JGA/USGAハンディキャップインデックスの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる

■競技

I. スクラッチ競技

1. 平成24年度第46回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

パブリック選手権はアマチュアゴルファーであれば誰でも参加できる開かれた檜舞台であり、またトップアマへの登竜門でもある。参加者数は、平成14年度～平成18年度の5年間は毎年一万名を超えるビッグ大会に成長したが、平成23年度は東日本大震災の影響を大きく受け、前年度に引き続き、一万名の大台割れ7,075名(内男子6,313名、女子762名)となった。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本アマチュアゴルフ選手権競技 平成24年7月3日(火)～7日(土) 奈良国際ゴルフ倶楽部(奈良県)の出場資格が、付与される。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	36	15	39	5	95

(1) 18ホールストロークプレー

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本 A	うぐいすの森ゴルフクラブ & ホテル馬頭	5/12(土)-13(日)
2. 東日本 B	富士見高原ゴルフコース	5/16(水)-17(木)
3. 東日本 C	市原ゴルフクラブ 柿の木台コース	5/16(水)-17(木)
4. 中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	5/16(水)-17(木)
5. 西日本 関西	紫香楽国際カントリークラブ	5/16(水)-17(木)
6. 西日本 中国	マーメイド福山ゴルフクラブ	5/15(火)-16(水)
7. 西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/16(水)-17(木)
8. 西日本 九州	瀬板の森北九州ゴルフコース	5/22(火)-23(水)
9. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/27(月)-28(火)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	紫あやめ36	6/5(火)-6(水)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

2. 平成24年度第12回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成24年度は第12回大会となるがますますの盛況を期したい。第4回大会までは全日本男女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の名称で男子部門、女子部門を同日・同会場で開催していたが、参加者数の増大を機に平成17年度第5回大会から女子部門を独立させ、競技名称も全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に改称し、単独競技となって8回目を迎える。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本女子アマチュアゴルフ選手権競技 平成24年6月19日(火)～23日(土)愛知カンツリー倶楽部(愛知県)のシード権が付与される。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	20	1	23	—	44

(1) 18ホールストロークプレー

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	5/13(日)
2. 中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	5/10(木)
3. 西日本	ダンロップゴルフコース	5/11(金)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手
 (2) 18ホールストロークプレー

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	八千代ゴルフクラブ	5/30(水)-31(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手
 (2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

3. 平成24年度第6回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

近年のジュニアゴルファーの台頭と共に、パブリック選手権はジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本ミッドアマ選手権を創設した。以降ミッド層に好評で支持を得ており、機も熟したので平成19年度より全日本選手権とし、本年度は第6回大会を迎えた。

参加者数は、平成19年度5,074名、平成20年度5,758名、平成21年度5,767名、平成22年度5,976名と順調に伸長を見ていたが、平成23年度は東日本大震災の影響もあり5,902名と初めて減少となった。

全日本男女上位者各2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技平成24年11月14日(水)～16日(金)鳴尾ゴルフ倶楽部(兵庫県)、日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成24年11月12日(月)～13日(火)小金井カントリー倶楽部(東京都)の出場資格が付与される。

◆ 競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
男子の部	32	12	39	5	88
女子の部	17	7	22	—	46

- (1) 18ホールストロークプレー

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本A	ウインザーパーク ゴルフ アンド カントリークラブ	7/31(火)-8/1(水)
2. 東日本B	鹿島南蓼科ゴルフコース	7/24(火)-25(水)
3. 中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	7/26(木)-27(金)
4. 西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	7/26(木)-27(金)
5. 北海道・青森	ダイナスティゴルフクラブ	7/27(金)

- (1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手
 (2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。北海道・青森は、18ホールストロークプレー

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	9/5(水)-6(木)

- (1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手
 (2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

4. 平成24年度第18回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

男子シニア、女子シニア選手権競技とも第18回大会、ミッドシニア選手権競技は第9回大会

を迎接シニア層に定着してきた。平成23年度から男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催している。

全日本シニア上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催の日本シニアゴルフ選手権競技平成24年11月7日(水)～9日(金)Jクラシックゴルフクラブ(徳島県)のシード権が、付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	24	11	30	—	65

(1)18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	9/25(火)-26(水)
2.中部日本	アリジカントリークラブ花垣コース	9/19(水)-20(木)
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	9/20(木)-21(金)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	西神戸ゴルフ場	10/17(水)-18(木)

(1)出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2)36ホールストロークプレー(2日間競技)

5.平成24年度第18回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度から男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催する。これに伴い、地区決勝は1日競技から2日間競技へと充実した。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催平成25年度日本女子シニアゴルフ選手権競技(開催日、場所未定)の出場資格が、付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	13	8	19	40

(1)18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	9/25(火)-26(水)
2.中部日本	アリジカントリークラブ花垣コース	9/19(水)-20(木)
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	9/20(木)-21(金)

(1)出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	西神戸ゴルフ場	10/17(水)-18(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

6. 平成24年度第9回全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成16年度よりミッドシニア層(65歳以上)の要望に応え、高齢者ゴルファーが参加し易い競技にすべく、男子部門のみであるが予選から全日本まで通して独立競技とする改善を実行し、本年度は第9回大会を迎えるが一層の参加者の増大を期したい。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドシニアゴルフ選手権競技 平成24年11月5日(月)～6日(火)タカガワ東徳島ゴルフ倶楽部(徳島県)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	14	9	21	44

(1) 18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	9/25(火)-26(水)
2.中部日本	アリジカントリークラブ花垣コース	9/19(水)-20(木)
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	9/20(木)-21(金)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	西神戸ゴルフ場	10/17(水)-18(木)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

II.アンダーハンディ競技

1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGSスポンサー杯、(2)PGSハンディ杯

2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯(2)ブリヂストン杯(3)グランドマンズリー

◆開催要項

1.参加資格

競技	参加資格	競技方法
----	------	------

1.予選 (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS 会員	アンダーハンディ競技 18ホールストロークプレー
2.決勝 (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯	PGS スポンサー杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	
(3)グランドマンズリー	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	

(注)PGS 会員:JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした当協会の会員で、誰でも会員になれる

2. 競技要項

(1)PGS スポンサー杯予選

PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技で、ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイ杯の4冠競技がある。平成24年度はダンロップ杯43回、ブリヂストン杯24回、サンレオ杯13回、キャロウェイ杯15回、合計95回の予選が開催され、11月に東日本・中部日本および西日本の3地区で地区決勝大会を開催する。平成23年度は5,733名の参加者を得た。

(2)PGSハンディ杯予選

PGS 会員を対象とした当協会主催のアンダーハンディ競技。平成24年度は予選競技を24回開催する。平成23年度は544名の参加者を得た。

(3)ダンロップ杯決勝

ダンロップ杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(4)ブリヂストン杯決勝

ブリヂストン杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(5)グランドマンズリー決勝

ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイ杯、PGS ハンディ杯の各予選の上位者、および各予選のベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

男子A・Bクラス、女子A・Bクラス各1名に、(財)日本ゴルフ協会主催 JGA杯 J-sysゴルフ選手権 平成24年11月28日(木)三好カントリー倶楽部・東コース(愛知県)の出場資格が付与される。(当該地区・中部日本)

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	—	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	—	24
	サンレオ杯	5	4	4	—	13
	キャロウェイ杯	6	4	5	—	15
2.PGSハンディ杯		7	5	7	5	24
合計		44	25	45	5	119

2. 決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	ラ・ヴィスタゴルフリゾート	11/ 5(月)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	10/16(水)
3.西日本	京都大原パブリックコース	11/ 2(金)

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	市原ゴルフクラブ	平成25/3/1(金)
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	10/ 2(火)
3.西日本	大阪パブリックゴルフ場	11/13(火)

(3)グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日
1.東日本	イーストウッドカントリー倶楽部	11/15(木)
2.中部日本	森林公園ゴルフ場	11/ 2(金)
3.西日本	つるやカントリークラブ西宮北コース	11/30(金)

3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度まで高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートさせた。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストローク競技で、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。平成23年度よりゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けている。

◆競技日程

1.予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	8	9	6	3	26
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	9	9	6	3	27

(1)18ホールストロークプレー

(2)PGS・ドリームエイジハンディキャップ方式(年齢+歩数によるハンディキャップ)により順位を決定。平成23年度より歩数ハンディキャップに上限を設けた

(3)ゴールドティ使用

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/24(水)
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	11/ 6(火)
3.西日本	琵琶湖レークサイドゴルフコース	10/30(火)

(1)競技方法 :予選と同じ

4.PGS西日本月例杯

PGS 西日本月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るための、PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技である。以前は東日本・中部日本でも開催していたが、現在は西日本地区のみで開催している。今後 JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得推進、アンダーハンディ競技の充実の観点から、課題を整理の上再度全日本競技を目指したい。

(1)開催回数

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	79	47	25	19	170

(2)参加資格 :PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスを取得している者

(3)競技方法 :18ホール・ストロークプレー、アンダーハンディ競技

5.PGS中部日本月例杯 :みんなでうきうき旅'ゴルフ

平成21年度より新規競技会「PGS中部日本月例杯:みんなでうきうき旅'ゴルフ」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、当協会は従来からわが国唯一の公認ハンディキャップであるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの取得機会の一層の拡大を目指した競技会である。

(1)予選

① 開催会場 :中部日本会員コース 10コース

② 参加資格 ・アンダーハンディ競技:PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスの取得者。

・ダブルペリア競技:PGS会員、及びJGA/USGAハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー

③ 競技方法 ・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)
・ダブルペリア競技

(2)決勝

① 開催日 :平成25年4月24日(水)

②開催会場 :セントレジャーゴルフクラブ定光寺

③参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

④ 競技方法 :・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)
・ダブルペリア競技

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。JGA/USGA ハンディキャップインデックスの普及振興を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロック分けブロック予選を開催、各ブロックより男女各2チーム、並びに決勝大会開催クラブより男女2チーム、前年度優勝クラブ代表男女2チームをシードにより加えた合計12チームで決勝大会を開催する。

1.ブロック予選

(1)参加資格

東日本地区会員クラブの何れかで PGS 会員登録をし、JGA/USGA ハンディキャップインデックスを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA/USGA ハンディキャップインデックス)

②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0

③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、うぐいすの森馬頭、ハーモニーヒルズ、ウインザーパーク、うぐいすの森水戸、下館、オールドーチャード	うぐいすの森ゴルフクラブ水戸	10月2日
Bブロック	古河、新玉村、前橋、上武、朝霞、妻沼、三井の森	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9月21日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、千葉よみうり、八千代、セントレジャー市原、ラヴィスタ、紫あやめ36	ラ・ヴィスタゴルフリゾート	10月4日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月2日

(4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する

2. 決勝大会

(1)開催会場 :下館ゴルフ倶楽部

(2)開催日 :前夜祭 平成24年10月29日(月)・クラブ対抗戦 10月30日(火)

(3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ

②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4)チーム編成 :1クラブ男子部門8名・女子部門5名

(5)競技方法 :①18 ホールストロークプレー

②ハンディキャップは最新の JGA/USGA ハンディキャップインデックスを適用
(男子部門20.0、女子部門30.0まで)

③男子部門 :上位5名のネットスコアの合計スコアによる

⑤ 女子部門 :上位3名のネットスコアの合計スコアによる

7.協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の様様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGS ニュース」を従来年2回発行(毎年2月、及び9月)し競技参加者に対して無償配布してきた。「PGS ニュース」は既に79号を重ね、我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

平成23年度は、東日本大震災の影響による競技参加者人数の減少から、協会財政事情の逼迫が顕在化したため、年1回(2月発行)とし、平成24年度以降は制作の外部委託を実施する。

【 公益目的事業 2 ゴルフ普及振興事業 】

■ゴルフ普及振興事業

1. セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資するための事業を実施する。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する。

(1) PGSセミナーの開催予定

日時、テーマ、講師等未定

(参考) セミナー開催実績

- ・平成18年度 「ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件」
講師：降旗貞夫(日本ゴルフ場総合研究所 専務理事)
- ・平成19年度 「物理学から見たゴルフの楽しさ」
講師：八木一正行(宮城大学教授)
- ・平成20年度 「ゴルフのカラダ革命」
講師：宮田トオル(メデイカルケア院長)
- ・平成21年度 「ゴルフ場はエコ・パーク」
講師：縣 和一(西日本グリーン研究所所長、九州大学名誉教授)
- ・平成22年度 「アンチエイジング・ゴルフという考え方」
講師：齋藤真嗣(ニューヨーク州医師)
- ・平成23年度 東日本大震災の影響から財政状況の逼迫化が顕在化、開催見送り。

(2) 研修会の開催予定 : グリーンキーパー研修会

日時 : 平成24年4月5日(火)

場所 : セントレジャーゴルフクラブ 定光寺

テーマ: 未定

講師 : 未定

(参考) 研修会開催実績

- ・平成18年度 「コース人員・資材・経費について」「グリーン管理とコースを中心とした管理」「リンクコースの特性と感知方法」
- ・平成19年度 「グリーンオーバーシートについて」「グリーン肥培管理及び今後の方向性」「コース管理業務委託による一般管理」
- ・平成20年度 「これからのゴルフ場のコース管理」「コース管理概要とインターシード計画」
- ・平成21年度 「コースの現状について」「これからのコースメンテナンスの動向について」
- ・平成22年度 「ベントグリーン全面張替えとコース管理」「2009年度コース管理について」
- ・平成23年度 「名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)のコース管理について」「土壌改善による健康な芝作り」

2. 交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフの普及振興のために斯業界の諸団体は連携・協力してゴルフ市場活性化に向けた様々な活動を展開する必要がある。ゴルファー人口の底辺拡大はゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、豊かな人間性の涵養、高齢者の健康の保持増進、また児童・青少年の健全な育成に資するもので、この観点から当協会は業界諸団体と連携・協力してゴルフ市場の活性化に向けた事業を展開する。

(1) 日本ゴルフサミット会議

日本ゴルフサミット会議はゴルフ業界17団体で構成され、平成24年度は次のテーマの下に活動するが、当協会も歩調を合わせた活動を展開する。

(注)平成24年1月13日開催の日本ゴルフサミット会議において、日本ゴルフ場支配人会連合会の加入が承認され、17団体となる。

- ① ゴルフ界は環境問題に積極的に取り組む
- ② ゴルフ場利用税撤廃運動の継続
- ③ 国家公務員倫理規定における「ゴルフ」の削除
- ④ 楽しくゴルフをプレーしていただくためのキャンペーン活動の提唱
- ⑤ グリーン・ティ・チャリティ(東日本大震災復興支援活動)の推進

(2) ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

ゴルフ業界の現況下、新たなゴルフ需要の創造と、ゴルフの健全成長に向けた様々な取組が展開されている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は平成15年10月に発表された『ゴルフ市場活性化行動計画検討会報告書』(経済産業省)に基づき、平成16年9月にゴルフ業界5団体(注1)により発足した。「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」のスローガンの下に、(1)「スクランブルゴルフ」の提唱、(2)「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」(日本ゴルフ場事業協会主催)の支援並びに(3)平成23年度より当協会の「PGS ドリーム・エイジゴルフ大会」が、当委員会の後援を受けることが決定された等、業界5団体が連携してゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開している。

平成24年度には、関西地区ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)を創設予定である。

(注1)構成団体 : (財)日本ゴルフ協会、(社)日本ゴルフ場事業協会、(社)日本ゴルフ用品協会、(社)全日本ゴルフ練習場連盟、および当協会

(3) NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、引き続きジュニアゴルファーの育成に連携して活動する。

3. 調査・研究事業

(1) 平成24年度調査・研究事業

公益社団法人認定を機に、メイン事業のゴルフ普及振興に加えて、ゴルフ普及振興事業の調査研究事業の充実を図り、その成果を世の中に広く情報発信する。この様な観点から、ゴルフ業界の需要実態推移、同地域的推移、ゴルファーのニーズ調査等に関する調査レポートを作成する。調査・研究概要は以下の通りである。

- ①テーマ : 「ゴルファーの動態統計調査」
- ②調査委託先 : 株式会社WAY企画事務所 山岸勝信
- ③調査期間 : 平成24年9月中旬～11月中旬
- ④調査対象者 : 約2万名

(参考)過去の調査・研究実績

- ・平成18年度 「会員コースのサービス設備や施策の現状」
- 「女性ゴルファー来場者動向・薄暮利用者動向に関するアンケート調査」、

- ・平成19年度 「パブリック選手権参加者アンケート」
「パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査」
- ・平成20年度 「シニア選手権参加者アンケート」
- ・平成21年度 「シニア選手権参加者アンケート」
「ドリーム・エイジ参加者アンケート」
- ・平成22年度 「シニア選手権参加者アンケート」
「ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」
(静岡理工科大学 富田寿人准教授に委託)
- ・平成23年度 東日本大震災の影響による財政逼迫から実施見送り

【 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業 】

■ハンディキャップ普及振興事業

1. 公平な統一ゴルフ・ハンディキャップの普及振興事業

【自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任】

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGA/USGAハンディキャップインデックス:国際ゴルフ・ルールに基づき(財)日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGA/USGAハンディキャップインデックスは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及を推進している。競技主催団体にとっては、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、アンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件である。

当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約2万4千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることができ、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

2. 「USGAコースレーティングシステム」、「USGAハンディキャップシステム」の導入

日本ゴルフ協会(JGA)は、平成24年よりUSGAが開発・所有し、世界の約70ヵ国と地域で採用されている、「USGA コースレーティングシステム」(通称スロープシステム)、および「USGA ハンディキャップシステム」の導入を決定した。

USGAハンディキャップシステムの導入に伴い、コースレーティングもこれまでのJGA方式からUSGA方式に変更となり、改めてコース査定を行い算出されたスロープレーティングを、平成24年より順次付与することになった。スロープレーティングの普及により、ゴルファーはこれまで以上に公平なハンディキャップによってゴルフを楽しむことが可能となり、ひいてはプレー回数やゴルフ人口の増加などゴルフの更なる普及に繋がることが期待される。

また、USGAハンディキャップシステムでは、平成26年からハンディキャップ査定スコアカード枚数が、現行の10枚から20枚に変更される。

当協会もJGAの動きに連動して、順次協会加盟会員コースのスロープレーティングを査定し、USGAハンディキャップシステムの導入を推進している。

【JGA/USGA ハンディキャップインデックスの導入状況】

1. 平成18年4月現在

	東	中部	西	合計
会員数	33	11	42	84
JGA採用	31	10	21	62

導入率74%

2. 平成24年4月現在

	東	中部	西	北・青	合計
	31	11	39	5	86
	29	11	38	5	83

*導入率93%

【JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の推移】

単位:名

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度計画
取得者人数	20,262	25,451	23,471	24,663	26,523	23,371	26,800

2.JGA/USGA コースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップである JGA/USGA ハンディキャップインデックスの普及のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する(財)日本ゴルフ協会(JGA)に対して、会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき申請窓口として機能している。平成24年度は、次の15コースでコースレート査定を予定している。

東日本地区	西日本地区	中部日本・北海道・青森地区
1.丘の公園清里ゴルフコース 2.小淵沢カントリークラブ 3.鹿島南蓼科ゴルフコース 4.古河ゴルフリンクス 5.市原ゴルフクラブ柿の木台コース 6.新玉村ゴルフ場 7.うぐいすの森ゴルフクラブ水戸 8.富士見高原ゴルフコース 9.オールド'オーチャート'ゴルフクラブ	1.ダンロップゴルフコース 2.武庫ノ台ゴルフコース 3.青野運動公苑アオノゴルフコース 4.北神戸ゴルフ場 5.京阪ゴルフ倶楽部	1.小杉カントリークラブ

【 その他事業 助成金事業 】

■助成金事業

本事業はゴルフの普及を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に、助成金事業を実施する。当該団体の活動を通じて間接的に、児童・青少年の健全な育成に資する事業と考える。

1. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会 :助成金50万円

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、ゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金50万円

日本高等学校ゴルフ連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

なお、平成23年度は東日本大震災の影響による財政逼迫から見送り。平成24年度は未定。

以上